

## 経営体の概要

- ・所在地：茨城県八千代町
- ・経営体名：平塚ライスセンター
- ・栽培作物・作付面積：水稲52ha・麦25ha・大豆20ha
- ・従業員数：6名（うち3名パート）（令和元年8月現在）

## 導入技術

- ・KSAS((株)クボタ製)  
圃場管理システム, 食味・収量コンバイン

- 圃場毎の籾水分・タンパク含有率を数値で確認

水分やタンパクによる仕分け乾燥  
↓  
乾燥の効率化・お米の差別化  
↓  
圃場毎のデータ蓄積  
↓  
データ分析・圃場改善

- 収量・食味(タンパク)の改善



## 導入経緯

- 年々増加する圃場面積や受託作業により、管理状況の把握が紙ベースでは困難になりつつあった。
- このため、圃場管理状況を的確に把握する目的で、2012年にKSASシステムを導入した。

## 取組の特徴・効果

- 品種別に色分けしたマップにより作付状況が一目瞭然で確認可能。作業履歴(年内・過去)の振り返りが容易となった。
- 収量・水分・タンパク質含有率を圃場毎に数値で確認可能。圃場によって異なる品質を、タンパク質含有率による仕分け乾燥で差別化。  
→ 自信を持って「おいしいお米」をお客様に届けることが可能となった。
- 蓄積された過去からの圃場毎の収量推移データから、土壌改良の効果を確認。圃場毎の施肥設計を見直し、収量・食味の改善が可能となった。  
→ 目標としている収量・食味を達成した圃場増加が増加。平均収量は30kg/10a UP。
- 現在では、KSASは必要不可欠の営農ツールとなっている。今後は食味を考慮しながら平均収量540kg/10aを目指すとともに、販路開拓、輸出米にも取り組み、水稲100ha規模の営農を目指す。